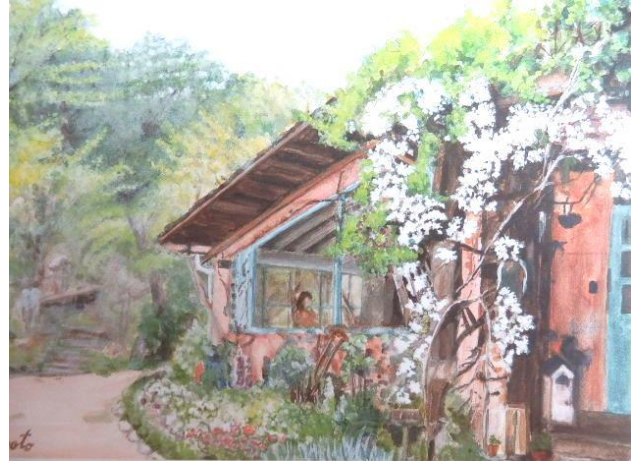


学長のコラム

202 本の桜

平成 21 年頃から本学に勤務されている教職員の皆様はご存知なのだと思うが、私は、本学にある桜が 202 本であることを知らなかった。河瀬事務局長が、この桜のことについて、教育学術新聞に投稿するとの話から、前小野学長が編集された「202 本の桜」と題した本学のブックレット 02 を読む機会を得た。それは、平成 22 年 3 月に開催された「桜について考えるシンポジウム—100 本の桜」で行われた講演等を取りまとめたもので、まず、202 本の内訳について、次のような説明がある。まず、本学園創立 50 周年の年であった平成 21 年は、熊本北ロータリークラブも創立 30 周年で、その記念事業として 100 本のソメイヨシノを植樹することとなり、その場所として本学 1 号館の周囲が選ばれた。その翌年、この桜シンポジウムを開催するにあたり俳人長谷川権氏の講演にあわせて 100 本の山桜を植樹することになり、さらに、創立 60 周年を迎えられる益城病院の山崎由貴子会長から、福島県三春の枝垂れ桜 2 本を寄贈頂いたとのことである。

このブックレットには、桜に纏わる話が満載で、私なりには、つぎのような知識が興味深かった。○桜は、六百種類以上の品種があるが、基本は、ソメイヨシノと山桜である ○ソメイヨシノ（染井吉野）は、江戸末期に江戸染井村の植木屋さんが吉野桜（オオシマザクラとエドヒガンとの交雑種）と名づけた園芸品種であり、山桜は、日本列島に自生していた野生の桜である。したがって、江戸時代以前に、俳句・短歌や物語に出てくる桜は、花と葉がほぼ同時にでてくる山桜のことである。○桜の開花時期と地球温暖化、そして、「休眠打破」という自然界の巧妙な仕組みと狂い咲きなどであった。執筆者のひとり、慶誠高校の武藤哲夫教諭は、「阿蘇高森峠に千本桜というのがありますが、熊本保健科学大学キャンパスの“西里百本桜”と名前がつくのはそう遠い日ではないような感じがします」と書いていただいている。時々のキャンパス散歩において、染井吉野 100 本、山桜 100 本、枝垂れ桜 2 本の数と場所を確認するのを楽しみにしようと思う。



4 月・5 月の主な行事予定

4 月 1 日 (金)	新規採用者オリエンテーション、辞令交付式
2 日 (土)	入学式、後援会総会、実習認定式 (看護学科 3 年次)
6 日 (水)	新入生歓迎会 (学生会主催)
13 日 (水)	平成 27 年度成績優秀者表彰式
14 日 (木)	杏友会歓送迎会 (熊本ホテルキャッスル)
5 月 15 日 (日)	開学記念日 助産別科開設 10 周年記念事業 → 12 月 4 日(日)に延期
24 日 (火)	平成 28 年度第 1 回 新任教員お披露目講演会 平成 27 年度大学教育改革推進プログラム (学長裁量経費) 成果報告会
25 日 (水)	学校法人銀杏学園 理事会・評議員会

入学式

4 月 2 日 (土) に入学式を執り行い、学部生 378 名、大学院保健科学研究科 8 名、助産別科 20 名の総勢 406 名の方々



が入学されました。当日は、たくさんの保護者の方々にもご出席いただきました。おめでとうございます。

4 月 1 日付辞令交付式

◆米満理事長挨拶

年度始めの今日はこの職場でも辞令交付式が行われていると思いますが、熊本保健科学大学でも、まさに今日から平成 28 年という新しいスタートを切ることになります。私は常日頃、医療の現場で仕事をしてきました。皆さんご存知のように熊本機能病院で院長・理事長を務め、現在は会長職であります。約 1,100 人の職員がありますが、その辞令交付式に出席してきました。やはりつくづく思いますのは、組織とは人であります。私は 1 月までは熊本保健科学大学理事と評議員の任にありました。外部から熊本保健科学大学の成長ぶりを見て参りました。驚異的なこの大学の発展にはすごいものがございます。これも、この大学のスタッフはじめ、沢山の方々の力があつたからこそです。特に教育の先生方、事務管理職の方々がすごい力を出された結果だと思えます。今年度の国家試験の合格にしましても、本当に社会に誇れると胸を張っております。全国 1 位になるのは、もう間近だと思います。これは本当に夢でもございません。今日からまた新しい年度がスタートしますが、先生方のお力を借りながら私も精一杯やっていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆崎元達郎学長挨拶

本日は、採用、昇任、異動、おめでとうございます。私も昨年の 4 月にこの大学に来たのですが、この大学に来て感じていることの一つが、教員と事務職員が対等であるということです。ですから、管理・運営分野は事務の方がリードするし、教学の部分は先生方がリードして事務が支えるという形が多いです。

また、「ぎんきょう」という学園通信の中で「熊本保健科学大学を熊本・九州・日本に誇れる大学に」というタイトルで、4つのミッションについて申し上げております。その一つ目が「人材養成による社会貢献」、二つ目が「教育・研究の質の向上」。三つ目が「意欲とやりがいのある明るい職場」という事で、教員と職員がコラボレートする職場にしましょうという内容です。最後に、この大学を「誇れる大学に」しようということをお願いしました。熊本では今、誇れる大学になっていると思いますが、九州においてもそろそろと思っています。更には日本において、この大学を我々が誇れるだけでなく、学生も誇れる、地域の皆さんも誇れる、そういう大学にしたいという事を申し上げました。

それから、「10年後、20年後も選ばれ続ける大学であるために」というタイトルで、昨年の10月頃から始めた教育改革についても掲載しています。まず一つ目は、2018年問題という18歳人口が減少し始めるという年であるということと、いわゆる2025年問題という医療、福祉の日本の政策、10年後の状況が大変な事になる問題に対して、どう対処するかという事。それから、高大接続システム改革について、大学入学希望者学力評価テストと高校基礎学力テストが実施されますという事。高校の教育、そして入試が改革される。そうなるとうちの大学の改革を我々がやらないといけない。学習指導要領も変わりますから、その変わった学習指導要領が適用された人たちが大学に入学するのが8年後になりますが、そういう10年後位を考えた時に我々は今何をしないといけないかという改革の議論を始めましたので、先生方も一緒に入っていたきたいと思います。

方法論としては、教育改革推進会議、カリキュラム改革委員会、教育方法改革委員会、入学試験改革委員会を作って全体を集約していこうという方針です。先ほどの学習指導要領のキーワードも、我々がこれからやらないといけないことこのキーワードも、「アクティブラーニング」であるということをお願いして、AC、CP、DPの3つのポリシーを見直ししながら、検討を進めていくということになります。

議論の方向性というのは10年後、20年後の医療、福祉がどうなっているかを考えてその状況に向けてどのように教育を修正していくべきかということをお願いして、変えていこうということで、キャッチフレーズを「10年後、20年後も選ばれ続ける大学である為に」としています。

今は就職率100%、国試の合格率は全国平均を上回って、偏差値が上がってきているという状況ですが、10年後、20年後も我々はそれが保てるかという課題を皆さん一人一人に考えていただいて、改革しようということ。ルーブリック評価とかe-ポートフォリオ等もやっていきますが、もう一つは、アクティブラーニングをするスペース、環境を整備するという事で、ラーニングコモンズという領域と図書館の一部に施設を整えて、学生諸君がアクティブに学べるように、先生方もそこをグループ学習等に使用していただけるように整備しています。この改革は、全学で力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

一つだけ、新しい人あるいは職位が変わった方々に申し上げます。去年も申し上げましたが、早く大学に慣れないで下さい。今新しくこの組織にいられた時の自分の感性を大事にしてください、良いことは良いことで認めていただいて良いのですが、ちょっとおかしいな、こうしたらどうかと思うような事が必ずあると思っておりますので、それを是非どこかに申し出るなり、自分で改善するなりして、小さな事でも良いですから良い方に変えていただければありがたいと思っております。この一年が大事です。よろしくお願い致します。

私の秘話ヒストリー

今回は医学検査学科の正代清光准教授に投稿していただきました。

今から二十数年前に、とある国立病院の結核病棟に4ヶ月ほど入院しました。就職した春の職場検診のX線写真で、左鎖骨下辺りにうっすらと白い影が写っていたのです。自覚症状は無かったのですが、直ぐに精密検査を受けに行き、ツベルクリン反応をすると、腕がスズメバチにでも刺されたかのように腫れあがりました。それから即入院です。最初の1ヶ月は6人部屋で、その後年齢の近い患者と同じ2人部屋に移動しました。私は、経口投与2種類の抗生物質と筋肉注射1種類の三者併用療法を受けていましたが、ある夏の日の夜に、部屋の窓を締切り、蚊取り線香を焚いて(病棟の周りには林で蚊が沢山居ました)1人で野球のナイター中継を見ていました。2時間程して野球中継が終わり、トイレに行こうとした瞬間、めまいと吐き気で立ち上がれなくなり、意識も薄れて行きましたが、完全に気を失うことはありませんでした。暫くしてどうにか立ち上がり窓を開けて外の空気を吸うと、少しずつ症状が治まっていきました。恐らく、抗生物質の副作用で肝機能が低下し、解毒能力が落ちていた私は、狭い部屋での蚊取り線香の殺虫成分が、蚊と私の命を奪おうとしたのではと思っています。何はともあれ、4ヶ月の入院と、1年間の服薬のおかげで完治することができましたが、健康が1番と思う今日この頃です。(文責：正代清光准教授)

国家試験合格状況 ()は全国

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	昨年の合格率
第102回 保健師	22 (8,799)	22 (7,901)	100.0 (89.8)	99.1 (99.4)
第105回 看護師	112 (62,154)	110 (55,585)	98.2 (89.4)	96.5 (90.0)
第99回 助産師	20 (2,008)	20 (2,003)	100.0 (99.8)	100.0 (99.9)
第62回 臨床検査技師	116 (4,400)	112 (3,363)	96.6 (76.4)	97.8 (82.1)
第51回 理学療法士	45 (12,515)	41 (9,272)	91.1 (74.1)	91.7 (82.7)
第51回 作業療法士	41 (6,102)	39 (5,344)	95.1 (87.6)	93.5 (77.5)
第18回 言語聴覚士	43 (2,553)	43 (1,725)	100.0 (67.6)	97.6 (70.9)

*